

## 改訂版の放射線副読本

図書館で大阪日日新聞をチェックしていて、4月19日付の標題の記事を見つけた。写真には「改訂前の放射線副読本（上）では事故後の東京電力福島第1原発の写真が使われていたが、改訂版（下）では再開したJR常磐線の列車などに差し替わった」と書かれている。こんなところにも、福島第1原発事故「隠し」が。原発事故から8年目、関心あるテーマなので紹介したい。



東京電力福島第1原発事故を受けた文部科学省が小中高生向けに作成した「放射線副読本」の昨年秋の改訂版では、復興に関する記述が大幅に増えた一方で、事故後の第1原発の写真や「汚染」の文言はなくなっているのが分かった。

文科省は改訂の狙いについて、放射線に関する知識を定着させ、事故の避難者へのいじめを防ぐためとするが「事故の軽視につながるのでは」と懸念の声も上がる。

文科省の副読本は小学生向けと中高生向けの2種類。2011年に外部委託で作成したものは、事故の記述がほとんど無かったため批判を受けた。14年に文科省が初めて自ら作成、事故の被害や放射線の人体への影響に関する記述を増やした。

今回の改訂では、再開した商業施設や国が被災地の産業拠点化を目指す「福島イノベーション・コースト構想」の紹介を加え、いじめにあった子どもの体験談も盛り込んだ。「復興」という文言が目立ち「立ち入りが制限されていた場所にも人が住めるようになるなど、復興に向けた取り組みは着実に進展している」などの記述が加わった。

一方、「汚染」の文言は「いじめを助長する恐れがあると判断し本文から落とした」（文科省担当者）。改訂前、冒頭の写真は、水素爆発を起こし骨組みがむき出しになった第1原発だったが、改訂後は、運転再開したJR常磐線の列車に替えた。文科省によると、避難指示の解除など復興の進展を踏まえ、内容を変更。福島県などの意見を参考にまとめたという。

福島第1原発事故の「原点」である事故写真をなぜゼロにするのか、「汚染」の文言を落とすのか、まったく理解できない。これでは「フクシマ復興」や放射線に関しても理解が進まないだろう。国・文科省や福島県原発事故に対する姿勢を示すものだ。

(2019年4月22日)